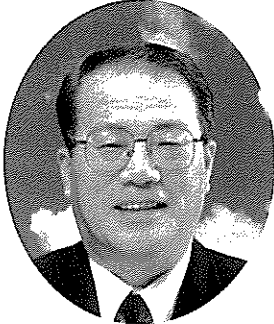


# 阿賀浦コミ協だより

平成23年1月28日  
広報第9号  
阿賀浦コミュニティ協議会

## 年頭のご挨拶



阿賀浦コミュニティ協議会  
会長 藤田 勇

**あけましておめでとうございます。**

平成22年度阿賀浦コミュニティ協議会・年事業も皆様のご協力をいただきましてあと僅かとなりました。

昨年以來我々を取り巻く情勢は混沌としており、経済面では世界不況の傷跡深く、経済の構造が変化し、政策面でも環太平洋連携協定（TPP）の交渉参加の是非をめぐって、日本経済の活性化の起爆剤か損失か政府は国内産業の先を見据えた政策を立て、特に農業につきましては慎重に臨んでいただきたいものです。

また先日総務省より発表された人口推計によれば、2010年中に20歳となった新成人は124万人で、総人口に占める割合は1968年の調査以来初めて1%を割り込み0.97%となったことが判明し、少子高齢化現象があらためて浮き彫りとなりました。

さらに国立社会保障・人口問題研究所によれば、10年後には119万人と予測され、30年後には78万人まで落ち込む見通しであり、少子化の歯止めは高齢化対策と表裏一体でなければならないと思います。

秋葉区ではどうかというと、新潟市の人口推計によれば区の人口は現在約78,600人で2035年には69,873人に減少するが、75歳以上の高齢者数は現在の10,642人から15,615人と逆に約5,000人増加するとされています。

2012年には団塊の世代（昭和22年生まれ）の高齢者入りが始まり、今後10年少子高齢化対策の正念場といわれる中我々コミュニティ協議会も今後の課題として取り組むべきと思われます。皆様方より今後さらなるご支援、ご協力等を賜りますようお願い申し上げます。

最後に皆様方のご繁栄、ご健勝を心よりお祈り申し上げまして年頭のご挨拶とさせていただきます。



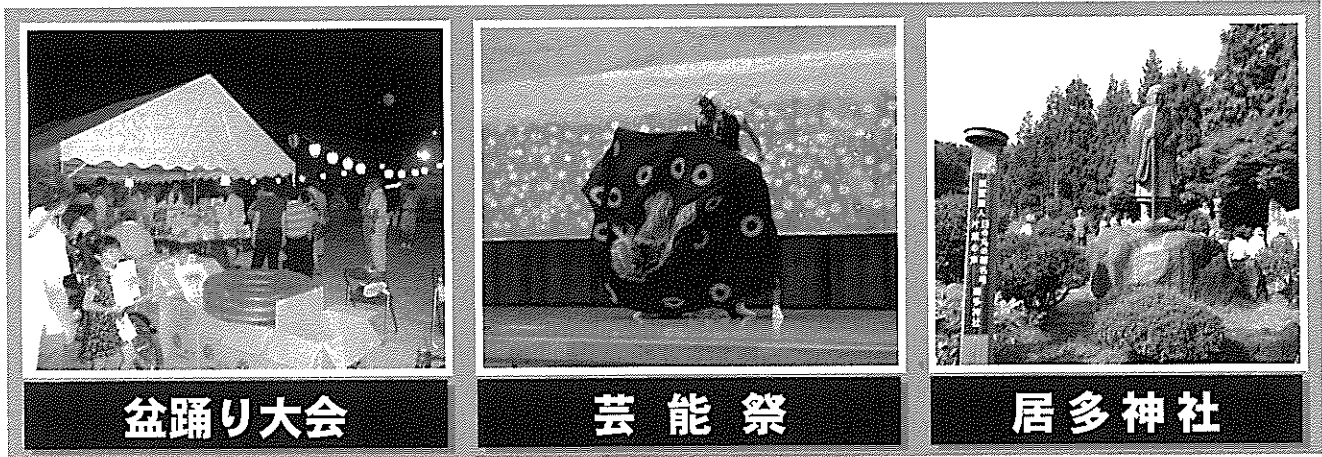
## 平成22年度の各部行事を振り返って

以下に、各専門部の部長さんから平成22年度の行事の総括を書かせていただきました。どの行事も楽しさいっぱいの、振れ合い広がる催しです。来年度にはさらに多くの皆様方にご参加いただき、有意義なひと時をお過ごしいただければと願っております。

### 文化教養部 (部長 阿部 和博)

大勢のご参加、ご協力により、本年度は初の盆踊り大会と役者ぞろいの芸能祭、そして昨年引き続き‘親鸞’に関わる史跡めぐりを実施することができました。

- ① 第1回盆踊り大会 …… 8月7日新津地域学園グラウンドを会場に350人を超える人達が集結。仮装あり、替え歌ありと、勇壮な「新津松坂」を堪能しました。
- ② 第4回芸能祭 …… 恒例の芸能祭は10月17日、五中体育館を会場に盛大に開催。磨き上げ、円熟味を増した演技は、今回も集まった聴衆を魅了しました。
- ③ 続・親鸞史跡めぐり …… 会計監査役の岡三郎さんを講師に親鸞聖人の「越後七不思議」を巡るツアーの第2段。今回は10月31日に大型バスにて居多神社（片葉の葦）、ゑしんの里（恵信尼寿塔）など親鸞聖人御上陸の地直江津（上越市）を訪ね、流刑地での布教の一端を垣間見ることができました。



盆踊り大会

芸能祭

居多神社

### 保健福祉部 (部長 城向 政秀)

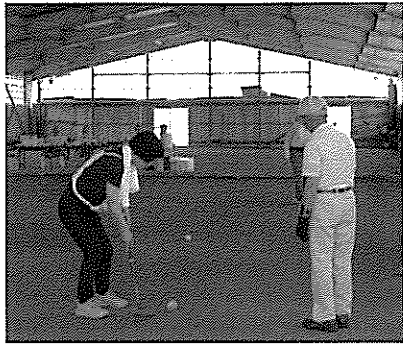
明けましておめでとうございます。当部では、昨年3つの行事を予定通り実施しました。改めて関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

振り返りますと、7月8日のゲートボール大会は大方の予想通り新金沢町がババパワーで優勝。10月3日のソフトボール大会は早朝の熊騒動にも動揺されず、なんと東金沢が中新田の連覇を阻止。11月14日のフロアカーリング大会は、あの舞花クラブ以外の人も頑張った新金沢町が第1回目の頂点へ。本大会は約90名の老若男女、特に東町は小さなお子様連れが何組も参加され大会を盛り上げました。また、「踊る阿呆に見る阿呆」の如く来賓や応援者にも試合に出ていただきました。参加者

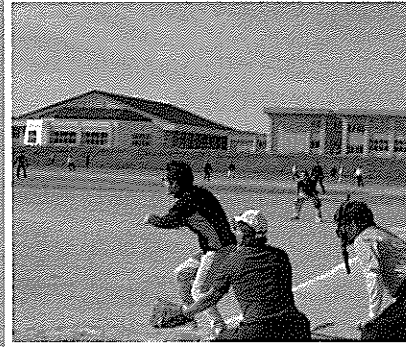
から年2回でもいいねとの評もあり、今や当部の目玉イベントに!! 誰でも簡単にできます。次回はもっともって来てね。

いろいろ事情もおありでしょうが、各地区満遍なくご協力頂ければ、より一層の世代間交流・地域のふれあいが図れるものと思います。

今年もよろしくお願ひ申し上げます。



**ゲートボール大会**



**ソフトボール大会**



**フロアカーリング大会**

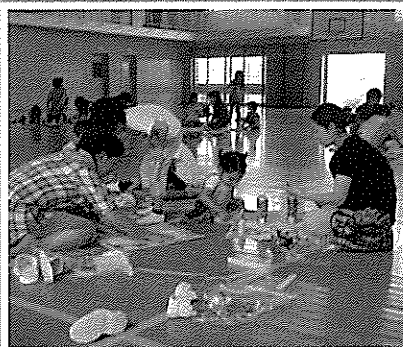
## 子ども育成部 (部長 村田 允)

子ども育成部では、子どもさんたちの遊びを通じての交流を深めるために、「凧づくりと凧あげ」「キックベースボール」を実施してまいりました。凧づくりと凧あげは、他の人に色塗りを聞いたり、竹ひごの張り方などを教わったり皆さんで語らいながら一緒に凧づくりを行い、凧あげでは時間を忘れて楽しんでいました。

キックベースボールは、幼児、低学年と高学年の2グループに分けての町内混成チーム試合で幼児、低学年には簡単なルールで行い、保護者と共に盛り上がっていました。

近年、核家族化により子どもさんが減少しており、一方では学校のクラブ活動や地域の活動、塾や習い事など休日の日でも忙しい日々を送っており、参加者を募ることに苦勞しております。

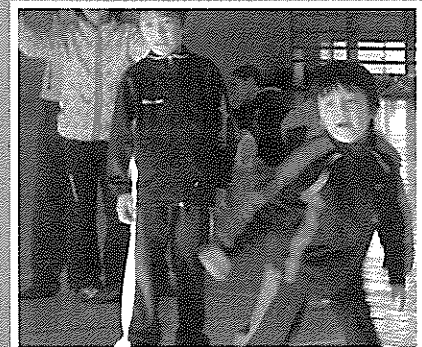
しかし、子どもさん同士、保護者同士、そして地域の方々との交流は災害の時には必ず役立つと思っております。今年も楽しくふれあいのできる行事を行いたいと思っておりますので、多数のご参加をお待ちしております。



**凧づくり**



**凧あげ**



**キックベースボール**

# 「五峰」、祖先への思いを詠む

投稿者 大安寺 岡 三 郎

平成18年に催された「安吾生誕百年」行事などが契機になって、新潟・旧新津・阿賀浦・大安寺イコール坂口安吾の構図が、少しは世間一般に認知されたように思えるのは、地元故のひいき目だろうか。沢山の小説やエッセイなどを著わしているのだから、安吾が世間に知られているのは当然といえば当然だ。が、そんな安吾だとて一人で世に出たのではない。父と母がいて祖父母があって、更には連綿とした祖先に連なってこそその誕生なのである。

安吾の父は仁一郎という。大安寺に籍を有して居を構えていた。十代の早くから漢詩に興味を持ち、大正7、8年には「北越詩話・上下2巻」の名著出版を成している。また、政治家、経済人としての足跡も多く、その経歴は華々しいものを持つ。反面、昔ながらの重立（おもだ）ち、おおやけといわれる家柄にありながら、自分の「代」で住居を整理消滅してしまったことへの悔いを常に抱き続けていたようにも思えるのである。その故にか、仁一郎（五峰）はその多くの作品の署名を「坂口」ではなく「阪口」としている。字源によれば、坂、阪は同義語だが阪は坂に比して険しいの意をもつという。「家柄」という重荷は、ひとり仁一郎だけに止まらず猷吉、上枝そして安吾と続くとりわけ男の子に、それ相応の形になって伝わっていたように思う。

坂口仁一郎の、村に残る唯一の分家「徳四郎家」に伝わる書幅の中に「手薦蘋蘩雙涙垂」に始まり56字からなる詩文がある。この作品は、大正11年（1922年）に仁一郎（五峰）により書かれたもので、仁一郎の弟である南義二郎は、この作品について次のように語っている。「大正10年、予（義二郎）と松ノ山の妹は坂口と共に大安寺に墓参した。その時、車中の口吟で予も妹も責任ある事とて思わず面を掩ふたのである」と（大安寺村誌）。

この詩は、即ち祖先の墓参の際の作品なのである。そして、この詩は「五峰遺稿」の中では「謁先考墓」と題したもので、大要は次のようである。

涙がしきりに流れて仕方がない

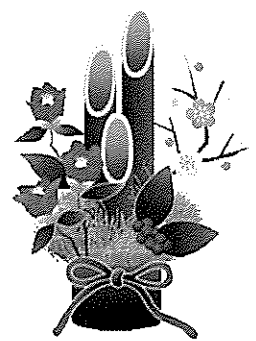
こんな私の心の内を地下のあなた方には察していただだけようか

若いころは国のためにと志したが 功なり難く 家を盛んにと努めたが既に力も衰えてしまった

今はただ、墓前で後悔するばかり、来年あたり私も地下に隋うでしょう

ただ家の節を傷つけることがなかったことだけは 不孝な子だが許してほしい

この2年前（大正9年）、胃癌の疑いを医師に告げられた五峰は病床に臥し、大正12年11月2日、65歳の生涯を閉じたのである。



## 編集後記

新年明けましておめでとう  
ございます。

コミ協だより新年号（広報  
第九号）をお届けします。

阿賀浦コミ協には、各専  
門部長さんが一生懸命企画  
した多彩な行事が満載で、  
参加した人たちから大変好  
評をいただいております。

コミ協メンバー一同多数  
の皆様の参加をお待ちして  
います。

広報部一同

## 川柳コーナー

- 五頭山に 月は浮かぶが つきこない
- 寒い朝 みばはどうでも タイツはく
- 忙しい 口で言うだけ 寝てばかり
- 定年前 女房怖くて やめられない

— 詠み人知らず —